

都市計画データ標準製品仕様書への意見への対応 1/2

	意見	対応結果（案）	対象箇所
1	業務に沿った構成の方が理解しやすい。	<ul style="list-style-type: none"> • 製品仕様書の章構成のうち、都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画決定で内容が異なる「第4章 データの内容と構造」と、「第6章 品質要求及び品質評価手順」を分けた。 <ul style="list-style-type: none"> • 4章 データの内容と構造 <ul style="list-style-type: none"> • 4.1に共通事項を記載 • 4.2～4.4を都市計画基本図、都市計画基礎調査、都市計画決定に分け、それぞれ「地物とクラスとの対応」「クラス図」「定義文書」を記載した。 • 6章 品質要求及び品質評価手順 <ul style="list-style-type: none"> • 「6.3 品質要求及び品質評価手順」に、6.3.1～6.3.3の細目を追加し、都市計画基本図、都市計画基礎調査、都市計画決定それぞれの品質要求及び品質評価手順を記載した。 <p style="text-align: right;">スライド3に補足</p>	製品仕様書 4.2～4.4 6.3.1～6.3.3
2	都市計画基礎調査や都市計画決定情報は、原典資料の品質によっては、1/2500の位置正確度を担保できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 都市計画基礎調査の位置正確度を、使用する原典資料の品質に応じて区分した。 • 都市計画決定情報の位置正確度を、以下のように修正： （計画図※は縮尺1/2500以上となっており、基本図を背景として作成することが理想なため） 地図情報レベル2500地形との相対距離0 <p style="text-align: right;">スライド4に補足</p>	製品仕様書 6.3.2、6.3.3 解説書 3.1.5
3	基礎調査の属性項目について • 建物利用現況及び土地利用現況の調書の各項目を必須とする場合には、大幅に調査費用が増える可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> • 建物利用現況及び土地利用現況の属性の多重度を以下の通り修正する。 <ul style="list-style-type: none"> • 用途やIDは必要最小限の情報として必須のままとするが、その他の項目はオプション（多重度[0..1]）に修正する。 • なお、オプションとなる属性を作成するか否か（基礎調査の対象とするか否か）は各自治体において決定し、作成する属性を拡張製品仕様書に示す。 → 解説書に「4. 都市計画データ拡張製品仕様書の作成」として、拡張製品仕様書の作成手順を示す。 	製品仕様書 4.3 解説書 4.2

都市計画データ標準製品仕様書への意見への対応 2/2

	意見	対応結果（案）	対象箇所
3	部分更新への対応① <ul style="list-style-type: none"> 図郭単位で更新しやすいファイル構成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果品のファイル単位は、地物の種類と図郭との組み合わせとする。 <ul style="list-style-type: none"> 地物の種類（モジュール）と図郭との組み合わせでファイルを分ける。 <ul style="list-style-type: none"> 地物の種類（モジュール）は、3D都市モデルと整合を図る。 図郭は国土基本図の図郭（地図情報レベル2500）※とする。 <p>※3D都市モデルは全国を対象にしているため、経緯度座標系を採用し、ファイルも経緯度に基づく地域メッシュ単位である。一方、都市計画データは自治体の行政区域が対象であることから、平面直角座標系を採用し、ファイルも国土基本図郭単位としている。ただし、図郭の境界線上に存在する地物を図郭で分けることはしない。</p>	製品仕様書 7.2 解説書 3.4.3
4	部分更新への対応② <ul style="list-style-type: none"> 部分的な更新を行った場合に、データ集合全体が検査の対象となると費用が増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> 位置正確度などの品質評価は、更新を行った地物のみを対象とする。 <ul style="list-style-type: none"> ただし、統合したファイルに過不足がないか、IDが重複していないか等は、データセット全体で評価する必要がある。 図郭の境界線上の地物に重複や漏れがないかを確認する必要がある。 	解説書 3.3.3
5	製品仕様書だけで理解するのは難しい。 <ul style="list-style-type: none"> 英語表記が分かりづらい。 専門用語が多い。 サンプルが欲しい。 	解説書を作成。 また、製品仕様書の付属資料として、以下を示す。 A：拡張製品仕様書テンプレート（クラス図の英語表記と日本語名の対応を含む） B：基礎調査調書・集計表のCSVテンプレート C：メタデータ（原典資料一覧）のCSVテンプレート	解説書（全体） 製品仕様書 付属資料

スライド5に補足

その他、DM分類コードや属性等へのご指摘を反映。

1. 業務に沿った目次構成への変更

- 「第4章 データの内容と構造」及び「第6章 品質要求及び品質評価手順」を、都市計画基本図、都市計画基礎調査及び都市計画決定情報で細分した。

都市計画データ標準製品仕様書：目次

- 1 概覧
- 2 適用範囲
- 3 データ製品識別
- 4 データの内容及び構造
 - 4.1 はじめに
 - 4.2 **都市計画基本図パッケージ**
 - 4.3 **都市計画基礎調査パッケージ**
 - 4.4 **都市計画決定情報パッケージ**
 - 4.5 空間スキーマプロファイル
 - 4.6 コードリスト及び列挙型 (Enumeration)
- 5 参照系
- 6 データ品質
 - 6.1 標準製品仕様の品質要求
 - 6.2 品質評価手順に関する共通事項
 - 6.3 **品質要求及び品質評価手順**
 - 6.3.1 **都市計画基本図データに対する品質要求及び品質評価手順**
 - 6.3.2 **都市計画基礎調査データに対する品質要求及び品質評価手順**
 - 6.3.3 **都市計画決定データに対する品質要求及び品質評価手順**
- 7 データ製品配布
- 8 メタデータ
- 9 その他

Annex A 都市計画データのための 拡張製品仕様書テンプレート

Annex B 都市計画基礎調査調書及び集計表のための CSV形式テンプレート

Annex C 原典資料一覧 CSV形式テンプレート

解説書

4.2.1 都市計画基本図の地物とクラスとの対応

地物とUMLクラス図のクラスとの対応表を追加

分類コード	名称	対応するクラス
1101	都道府県界	urf::Boundary
1102	北海道支界	urf::Boundary
1103	市町村界	urf::Boundary
1104	町界	urf::Boundary
1106	大字町界	urf::Boundary
1110	所属界	urf::Boundary
1111	行政区分点	urf::Administration

4.2.2 応用スキーマクラス図 (データ構造の模式図)

4.2.3 応用スキーマ文書 (クラスごとの定義書)

2. 品質要求及び品質評価手順の見直し

- 都市計画基礎調査データの品質要求を、使用する原典資料に応じて区分した。
 - 建物利用現況：（基本図と一致することが理想なため）
地図情報レベル2500
 - 土地利用現況：（基本図を背景に作成することが理想なため）
地図情報レベル2500の地形との相対距離0
 - その他：
GISデータの場合は変換誤差0、既成図数値化の場合は、デジタイズの誤差が許容値内であること。
- 都市計画決定データの品質要求を、計画図に基づく品質に修正した。
（計画図※は縮尺1/2500以上となっており、基本図を背景として作成することが理想なため）
地図情報レベル2500地形との相対距離0

※都市計画図書には、総括図（1/25000以上）と計画図（1/2500以上）が含まれる。総括図はできる限り一葉の図面に表示することが要求されている。一方、デジタル化すると図郭の境界を考慮する必要はない。そこで、標準製品仕様書では、都市計画決定情報として、計画図を対象とすることとしている。

5. 解説書

- 標準製品仕様書の補足として解説書を作成

	内容
1章	はじめに 解説書の目的や位置づけ
2章	標準製品仕様書の概要 製品仕様書の意義や都市計画データ標準製品仕様書の特徴や運用について概説。
3章	標準製品仕様書の解説 「都市計画基本図」「都市計画基礎調査」「都市計画決定」それぞれについて、クラス図の考え方や、幾何オブジェクトが満たすべき要件、座標参照系等、データ作成上特に理解すべき点を解説する。
4章	<p>拡張製品仕様書の作成 自治体ごとの製品仕様書（拡張製品仕様書）を作成する手順を解説。 DMの分類コードの追加や、基礎調査の調査項目の抽出、自治体に存在する都市計画の区域の種類抽出等、各自治体の要否に基づき、標準製品仕様書から必要内容を抽出（場合によっては追加）する方法を解説する。</p> <p>なお、拡張製品仕様書を作成するための素材として、以下のテンプレートを標準製品仕様書の付属資料とする。 Annex A 都市計画データのための 拡張製品仕様書テンプレート また、データ作成時の参考資料として以下のテンプレートを付属資料とする。 Annex B 都市計画基礎調査調書及び集計表のための CSV形式テンプレート Annex C 原典資料一覧 CSV形式テンプレート</p>
付属資料	<ol style="list-style-type: none"> 用語と略語 CityGML/i-UR解説 秘匿処理方法